R.Kaji

THE SANKEI SHO ALL COMERS

第71回 産経賞 オールカマー（GⅡ）

	1着	2着	3着	4着	5着
本賞	67,000,000円	27,000,000円	17,000,000円	10,000,000円	6,700,000円
付加賞	770,000円	220,000円	110,000円		

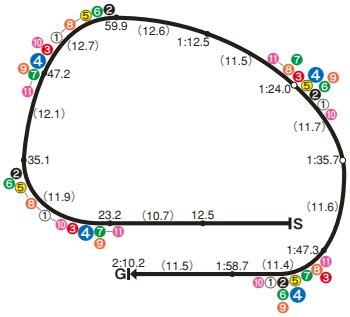
レース映像はコチラでご覧いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量　3歳54*ﾛ4歳以上57*ﾛ、牝馬2*ﾛ減、2024.9.14以降ＧⅠ競走（牝馬限定競走を除く）1着馬2*ﾛ増、牝馬限定ＧⅠ競走またはＧⅡ競走（牝馬限定競走を除く）1着馬1*ﾛ増、2024.9.13以前のＧⅠ競走（牝馬限定競走を除く）1着馬1*ﾛ増（ただし2歳時の成績を除く）

2025.9.21　中山　曇･良　芝2200ﾒｰﾄﾙ　（国際）（指定）

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム（着差）	コーナー通過順位	上り（600ﾒｰﾄﾙ）	馬体重（増減）	単勝オッズ	調教師	ﾚｰﾃｨﾝｸﾞ
1	④	レガレイラ	牝4	57	戸崎圭太	2:10.2	8-8-6-6	34.0	472（－6）	3.3①	木村哲也（美浦）	115
2	⑨	ドゥラドーレス	牡6	57	C.ルメール	1¼	9-9-3-3	34.4	498（－2）	3.5②	宮田敬介（美浦）	113
3	⑦	ヨーホーレイク	牡7	58	岩田望来	2	9-9-9-8	34.2	520（－6）	8.0④	友道康夫（栗東）	112
4	⑩	フェアエールリング	牝5	55	津村明秀	ハナ	6-6-1-1	35.0	464（＋2）	33.3⑧	和田正一郎（美浦）	106
5	⑤	ホーエリート	牝4	55	横山武史	¾	3-3-6-6	34.6	472（－8）	4.7③	田島俊明（美浦）	
6	⑧	リカンカブール	騙6	57	吉田隼人	¾	4-4-9-9	34.5	480（－8）	92.3⑩	田中克典（栗東）	
7	⑪	ワイドエンペラー	牡7	57	佐々木大輔	ハナ	11-11-11-11	34.1	498（－6）	181.1⑪	藤岡健一（栗東）	
8	①	コスモキュランダ	牡4	57	丹内祐次	クビ	5-5-2-2	35.2	502（＋4）	8.1⑤	加藤士津八（美浦）	
9	⑥	シュバルツクーゲル	牡4	57	菅原明良	½	2-2-3-3	35.1	492（－4）	66.7⑨	鹿戸雄一（美浦）	
10	③	クロミナンス	牡8	57	J.モレイラ	アタマ	7-6-8-9	34.7	494（＋10）	13.1⑥	尾関知人（美浦）	
11	②	リビアングラス	牡5	57	鮫島克駿	6	1-1-3-3	36.1	494（－2）	14.8⑦	矢作芳人（栗東）	

単勝④330円（1ﾍﾝ）　複勝④150円（2ﾍﾝ）　⑨130円（1ﾍﾝ）　⑦200円（5ﾍﾝ）　枠連④-⑦670円（1ﾍﾝ）
馬連④-⑨680円（1ﾍﾝ）　ワイド④-⑨340円（2ﾍﾝ）　④-⑦680円（11ﾍﾝ）　⑦-⑨550円（7ﾍﾝ）
馬単④-⑨1,400円（2ﾍﾝ）　3連複④-⑦-⑨1,970円（5ﾍﾝ）　3連単④-⑨-⑦7,740円（11ﾍﾝ）
5重勝③⑨⑫⑩④44,190円（13,487票）　対象競走：中山9Ｒ／阪神10Ｒ／中山10Ｒ／阪神11Ｒ／中山11Ｒ



通過タイム：600ﾒｰﾄﾙ 35.1 - 800ﾒｰﾄﾙ 47.2 - 1000ﾒｰﾄﾙ 59.9　上り：800ﾒｰﾄﾙ 46.2 - 600ﾒｰﾄﾙ 34.5

アラカルト

- 戸崎圭太騎手はセンテリュオで制した20年に続くオールカマー3勝目。ＪＲＡ重賞は本年7勝目、通算84勝目
- 木村哲也調教師はオールカマー初勝利。ＪＲＡ重賞は本年5勝目、通算36勝目
- スワーヴリチャード産駒はＪＲＡ重賞通算8勝目
- 1着レガレイラ、2着ドゥラドーレスはきょうだい。ＪＲＡ平地重賞競走でのきょうだい馬によるワンツーは初（グレード制を導入した84年以降）
- 4歳馬の勝利は21年ウインマリリンから5年連続、通算34回目
- 牝馬の勝利は22年ジェラルディーナに続く通算15回目
- レガレイラは天皇賞（秋）（ＧⅠ）に優先出走できる

レガレイラ *Regaleira*

牝　鹿毛　2021.4.12生
北海道安平町　ノーザンファーム生産
馬主・㈲サンデーレーシング　美浦・木村哲也厩舎
馬名意味・ポルトガル中西部の都市シントラにある宮殿

ウインドインハーヘアIRE系　F2-f

スワーヴリチャード 栗毛　2014	ハーツクライ 鹿毛　2001	サンデーサイレンスUSA
		アイリッシュダンス
	ピラミマUSA 黒鹿毛　2005	Unbridled's Song
		Career Collection
ロカ 鹿毛　2012	ハービンジャーGB 鹿毛　2006	Dansili
		Penang Pearl
	ランズエッジ 鹿毛　2006	ダンスインザダーク
		ウインドインハーヘアIRE

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4　Lyphard S5×M5

INTERVIEW

佐藤洋輔調教主任（ノーザンファーム早来）

心身ともに逞しくなった証なのでしょう

夏場の体調管理が難しい馬であり、ノーザンファーム天栄のスタッフからも調子は上がり切っていないとの話を聞いていました。そんなコンディションにもかかわらず、あれほどのパフォーマンスを見せてくれたことに驚いています。これは馬自身が心身ともに逞しくなった証なのでしょう。次走はさらに上向いた状態で臨めるはずなので、強いレースを期待します。

父スワーヴリチャード

北海道安平町　ノーザンファーム生産　中央、首19戦6勝(ジャパンC^{G1}、大阪杯^{G1}、金鯱賞^{G2}、アルゼンチン共和国杯^{G2}、共同通信杯^{G3}、日本ダービー^{G1}2着、東京スポーツ杯2歳S^{G3}2着、ジャパンC^{G1}3着、ドバイシーマクラシック・首^{G1}3着、宝塚記念^{G1}3着、安田記念^{G1}3着)、20年から供用
〔代表産駒〕**レガレイラ**(本馬)、**アーバンシック**(後出)、**コラソンビート**(京王杯2歳S^{G2}、フィリーズレビュー^{G2}2着、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1}3着)、**スウィープフィート**(チューリップ賞^{G2})、**アドマイヤベル**(フローラS^{G2})

母ロカ

北海道安平町　ノーザンファーム生産　中央6戦1勝(忘れな草賞^{OP}2着、クイーンC^{G3}3着)
ロックオブエイジズ(18 牡父スクリーンヒーロー)中央5戦0勝、地方4戦1勝
ドゥラドーレス(19 牡父ドゥラメンテ)中央12戦5勝(小倉日経賞^{OP}、江の島S、藻岩山特別、セントポーリア賞、オールカマー^{G2}2着、エプソムC^{G3}2着、七夕賞^{G3}2着、毎日杯^{G3}3着、菊花賞^{G1}4着)㊊
(20 牡父ジャスタウェイ)
レガレイラ　本馬(21 牝父スワーヴリチャード)中央10戦4勝(有馬記念^{G1}、ホープフルS^{G1}、オールカマー^{G2}、アイビーS・L3着)
獲得総賞金702,151,000円
セラドピラール(22 牝父シュヴァルグラン)中央7戦0勝
アルガルヴェ(23 牝父インディチャンプ)㊊
(24 牡父リオンディーズ)
(25 不受胎)

祖母ランズエッジ

北海道安平町　ノーザンファーム生産　中央0勝
ロカ(12 前出)
エッジースタイル(13 牝父ハービンジャーGB)中央3勝(都井岬特別)、**アーバンシック**㊊(菊花賞^{G1}、セントライト記念^{G2})の母
ブルークランズ(14 牝父ルーラーシップ)中央3勝(北大路特別)、**ステレンボッシュ**㊊(桜花賞^{G1}、オークス^{G1}2着)の母
ヴァルコス(17 牡父ノヴェリストIRE)中央2勝(ゆきやなぎ賞、青葉賞^{G2}2着)

曾祖母ウインドインハーヘアIRE

愛、英、独3勝(アラルポカル・独^{G1})、99年輸入、12年用途変更、**ディープインパクト**(日本ダービー^{G1}、ジャパンC^{G1}、日本リーディングサイヤー)の母

平地重賞初の〝きょうだいワンツー〟

K.Miura

グレード制度が導入された1984年以降、きょうだい馬が1、2着を占めたJRA重賞は2001年の中山大障害(1着ユウフヨウホウ、2着ゴーカイ)が唯一の例だった。しかし母ロカの産駒レガレイラ(父スワーヴリチャード)とドゥラドーレス(父ドゥラメンテ)が3倍台のオッズで1、2番人気を分けた今年のオールカマーは、レースも人気順通りに決着。昨年のグランプリホース・レガレイラが2歳上の半兄を2着に従えて勝利を飾り、平地のJRA重賞では初となる〝きょうだいワンツー〟が実現した。

先導役を務めたのは、内枠から手綱を押して飛び出したリビアングラス。6月の目黒記念でクビ差の2着に食い下がり、3番人気の支持を集めたホーエリートは3番手のインに腰を落ち着ける。レガレイラの戸崎圭太騎手は、先頭から10馬身ほど離れた中団を追走。一方のドゥラドーレスは虎視眈々とその直後を進んだ。

先手を奪ったリビアングラスは2コーナーでペースを緩めたものの、外回りコースの奥深い向正面に差し掛かると、中団を追走していたフェアエールングが一気に先頭へ進出。ドゥラドーレスも呼応して上昇し、戦況が一変する。それでも冷静に脚を溜めた戸崎騎手は4コーナーで徐々に間合いを詰め、直線入口からスパート。鋭く伸びたレガレイラが、粘り込みをはかるフェアエールングとこれに襲い掛かったドゥラドーレスを坂上でまとめてかわし、勝利を手にした。

昨年の有馬記念で1960年のスターロツチ以来、実に64年ぶりとなる〝3歳牝馬制覇〟を成し遂げた本馬は、レース後に骨折が判明。6月の宝塚記念で復帰にこぎつけたものの、〝グランプリ連覇〟は叶わずに苦い大敗(11着)を喫した。とはいえ、しっかりと態勢を立て直されて臨んだこの日は、初めて背負った57㌔の斤量もまったく問題とせず、さすがのパフォーマンスを披露。ホープフルS、有馬記念とGⅠ2勝を記録している中山コースで、本来の輝きを取り戻した。